

校長室だより

☆教育目標☆

自ら考え行動し、進んで行動できる生徒の育成
〈生活心得〉 時を守り 場を清め 礼を正す

平成31年4月26日発行 No.2
富岡市立富岡中学校 校長 中村 喜雄

☆☆「自立」を目指し・・・生活心得「時を守り 場を清め 礼を正す」☆☆

185名の生徒たちが、将来、自分の足でしっかりと立ち（自立）、厳しい社会の中で心豊かにたくましく生きていくためには、人格形成上大変重要である3年間の中学校生活において、生きる力の基礎ともいえる「自立」の精神を養うことが重要であると考えます。そして、その「生きる力」を育み「自立できる生徒」を目指すためには、3つの力（「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」）をバランスよく身に付けていかなければなりません。

そこで、本校では、生活心得として・・・

時を守り 場を清め 礼を正す

を掲げ、生徒と職員が生活する上での心得の一つとしています。折に触れ、生徒たちにこの言葉の意味を話していきたいと考えています。なお、この言葉は、教育学者の森信三先生が考えたものです。

【時を守り】とは、時間を守ることです。この意味は、ただ時間を守り時間に遅れないようにするというだけでなく、時を守ることにより相手への気配りをし、相手を敬うということです。そうすることで、相手から信用されるようになり、その積み重ねにより相手と深い信頼関係を築くことができるのです。また、自分自身も予定前の行動をすることで、心を静めることができ、これから何をすべきかということをも自分自身に問うことができます。そのことで、心に余裕がもて物事に対して冷静に適切に対応することができるのです。

【場を清め】とは、自分の周辺を整えることです。一番具体的なこととしては、きちんと自問清掃を行うことです。自問清掃で、次の5Kを目指します。

①気付く人になる ②心を磨く ③謙虚になる ④感動の心を育む ⑤感謝の心が芽生える

目標とすることは、一つでもゴミが落ちていたら、それを見過ごさず、腰をかがめ、足元のゴミを自分の手で、そして、自分の心で拾うことです。簡単なことですが、やるとなるとなかなか難しいものです。過去に全国高校野球大会で優勝した前橋育英高校野球部は、試合前と試合後に球場のゴミ拾いをしていたという話があります。ゴミを一つ拾えば一つだけきれいになります。そのことは、その場をきれいにするというだけでなく、謙虚な心をもちゴミを拾うことで、自分自身の心を磨き、心の成長につながるものと考えます。

【礼を正す】とは、きちんとした挨拶をすること、しっかりとした返事をすることです。挨拶の意味は、心を開いて相手に迫るということです。挨拶をすれば人間関係が良くなり、挨拶をしなければ人間関係が悪くなります。目標とすることは、挨拶をする時には、相手よりも先に、相手に聞こえる大きな声で、相手の目をみて、相手が気持ち良くなる挨拶をすることです。明るく大きな声で「おはようございます！」そして、呼ばれたらはっきりとした声で「ハイ！」と返事をするです。返事とは、相手の呼びかけに反応すること、つまり、相手を敬い、尊重の念をもって誠意ある対応をすることです。目標とすることは、呼ばれたら相手が聞こえる大きな声で、相手の目をみて、相手が気持ち良くなる返事をするです。きちんとした挨拶としっかりとした返事をすることで、相手との人間関係がより深くなるとともに自分自身の心も整えられ、凛とした人間に成長していくのです。

「時を守り 場を清め 礼を正す」

この言葉を常に意識し生活することができたら、生徒たちだけでなく、我々大人たちにとっても自分の大きな成長につながっていくものと考えます。

☆☆中体連春季大会 富中フライドをもって・・・☆☆

4/20(土)より、富岡甘楽中体連春季大会が各会場において開催されています。3年生にとっての大きな大会は、本大会と夏の中体連総合体育大会となります。生徒一人一人が自分の力を十分発揮し自分にとってもチームにとっても悔いの残らないよう、「富中プライド」と「自分のプライド」をもって頑張ってくれることを願っています。

保護者の方々には、各会場におきまして、生徒たちに温かい声援と勇気を奮い起こさせる大きな応援をお願いいたします。



